

洋書輸入協会会報

VOL. 3
NO. 2

昭和44年2月

理事会報告

1月10日(金)

1. British Week について。

Book Development Council の Mr. Harris よりの来信によれば、展示場の広さが今迄報告されていたものの半分、約1000平方呎になった等、種々と相違があるので、更に確かめることとする。

2. 日米大学図書館会議開催のための募金について。

丸善中田氏より、募金委員長より協力が要請された旨報告あり。

3. 米東海岸港湾ストの件。

US 山川氏より最新情報の報告。

4. 学校紛争問題。

対策委員会の模様報告と共に、大学への陳情文案検討。同時に理事会としても、対策委員会へ、早急に推進方の要望あり。

5. 12月会計報告の検討。

1月16日(木)

都市センターホテルにおいて協会新年会開催。

1月27日(金)

1. 西独 Export Tax の件検討。

西独政府が、西独マルクの切上げを避けるために課した Special Export Tax について、種々のはねかえりを計算すると5%以上の業者負担となっていることをどうするかの問題につき、昨年12月に引き続き検討の結果、今暫らく様子を静観すると共に調査を続行することとする。

2. 日経新聞記事、ブッククラブの件について。

全般的影響、殊に洋書業界への影響につき検討されたが、日本にはこれの発達を阻害する条件が多く、直ちに大きな影響を持つことはあるまいが、尚慎重に注視を要しようということとなった。

3. British Week について。

其の後調査の結果、武道館における即売には、10% (通常は20%) のマージンを必要とする旨判明。

4. 教育助成金に関する諸書類の作製に関する件検討。

5. 協会44四半期予算案の検討。

6. 学校紛争対策委員会立案、文部省への陳情文案の検討。

7. 雑誌欠号委員会より、米東海岸港湾ストの件につき、其の後の情勢報告。得意先宛雑誌等の納入遅延のお報せを協会名にて作製するか否かは、準備は進めるが今暫く様子を見ることとする。

8. 総務委員会より。

協会規約の中、415条の懇談会開催回数を改訂するよう提案あり、検討の結果、「毎月」を「年三回以上」と訂正する案とし、次期総会へ掛けることとする。

9. 文化厚生委員会より。

44年度東西合同懇親旅行会は、関西支部が世話役となって、6月伊勢地方に予定している由。

10. 協会会員名簿作製について。

今回より、協会担当者名を加え、総会までに作製することとする。

関西支部だより

1月14日(火) 1月例会は新年会を兼ねてPM6:00~9:00 大東楼にて開催、19社出席。三洋出版鈴木社長出席さる。丹羽支部長より支部本年の構想を別記の如く発表あり。鈴木三洋出版社長の挨拶の後宴に入りPM9:00散会する。

支部本年度構想

- (1) 雑誌型録の発行を強力に拡大して継続(尚1969年度版の利用社は東西で30社に及んでいる)。
- (2) 東西合同懇親会は6月伊勢で行う予定。
- (3) 本年中に東西理事会を関西で開く計画を立てる。
- (4) 協会海の家計画の拡大推進。
- (5) 対税関問題について広く業界のリーダーシップをとる事について検討する。
- (6) 支部懇親のため運動会の計画を検討中。
- (7) バックナンバーリストは1月末配布の予定。
- (8) 其の他昨年の諸事業は積極的に継続する。

1月27日(月) 税関との懇談会を開催、在阪業者10社アウトサイダー8社出席のもとに意見の交換を行う。

学校紛争に対する陳情

ご承知の通り大学紛争は業界に大きな問題を投げかけておりますが、この度専門委員会が組織され、取敢えず委員会としては下記の陳情書を作成の上、各該当大学に提出することになりましたので、その全文をお知らせ致します。

学 校 紛 争 対 策 委 員 会

陳 情 書

謹 啓

殿

貴大学の外国図書雑誌資料等の御購入につきましては、毎々御愛顧を蒙り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

扱て、すでに御承知のごとく昨今の紛争により、長期間御注文図書の納入及び既納分の代金支払が、一部中絶状態となっておりますため、すでに輸入代金を決済いたしております私共業者の負担、困却はひと通りではございません。

このまゝ推移いたしますと、新聞報道のごとく私共業者にとって容易ならぬ事態の招来も考えられます。

紛争の收拾につき日夜御努力中の御様子は重々承知しておりますが、なにとぞ私共業者の窮状も御賢察の上、一日も早く正常かつ円滑な営業活動が再開できますよう、関係各位の一層の御高配、お力添えをいただきたくこの段ひとえにお願い申し上げます。

敬 具

昭 和 年 月 日

東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5
藍沢ビル302号室 電話(271) 6901

洋 書 輸 入 協 会

理事長 司 忠

外 会 員 一 同

会 員 紹 介

——「国産」の洋書を生みだして3年——

日本書籍貿易株式会社

昭和33年創業。社長玉木新氏は業界の最も若い経営者である。創立以来同社は日本の産業構造の変遷をできる限り予測しながら体質改善を何度も行って来られた。当初は民間企業の「経営学」ブームにあわせて新刊書と雑誌のサブを主要商品とする輸入業であったが、やがておきまりのコース——過当競争→利潤低下のきざしを予見、すみやかに教育・知識産業としての学術洋書店をめざされた。昭和37年頃から社会・人文の諸分野の文献取扱に主力を注ぎ、これは附帯業務として同時に出版・製本・輸出などの新業務を余儀なくさせたのである。昨年日本書の出版を開始され「日新書房」を発足させ、特異な文献を出版しておられる。現状では欧米文献の復刻は、白人資本の専売特許の如くに思われていて、我国は、彼らにとっての永遠に最も御し易い顧客であろうとするかのようにみえる。玉木氏は彼らにチャレンジを開始されたのである。「国産の洋書」を世界の学界に提供してゆくことが同氏の使命であり、夢であると考えておられる。

新年懇親会（1月16日）

宴会というとお座敷に坐って、盃を廻し、やがて興が進んで隠し芸でも出ないと、仲々おさまらない我々の人情と風土ではあろうが、お互に洋書を輸入している仲間なんだから、もっとスマートに行こう、才一、坐ってでは両隣りとは懇ろになるが、もっと多くのメンバーと親しい挨拶を交すことが出来ない。こんなことから昨年カクテルパーティ形式にしたが、先ず先ず好評であったと思うので、今年も同じ都市センターホテルの会場を予約した。

会員は毎月、相当高い会費を負担しているのだから、各社一名は無料にしようではないか、という他に積極案として、在京の出版社代表にも参加して貰うこと、出席者は名札をつけてお互の面識を深めようということになった。

当日は午後6時より文化厚生委員長洋販渡辺社長の司会により、理事長丸善司社長代理中田常務の挨拶、出版社を代表してロビン・ド・クライヴロウ氏の流暢且つ簡潔な日本語の謝辞の後、各会員テーブルを替え、相手を替え、話題を変えて賑った。

平生、商売に鎗を削るメンバーも、年の始めの目出度さで和気あいあい。特に出版社代表との交流には結構な会であっ

た。雰囲気盛り上ると同時に急速にビールが減るので、頃を見て追加したが、これを含めて予算ぎりぎりに押える為に、贅沢な銘柄のウイスキーは敬遠して、中どころで我慢して頂いた。

細かいことだが、画用紙をクリップで留めた名札が貧相である、と丸善さんから同情を頂き、来年は名札を留める為にボールペンの御寄附があるとか。

新年の集りとしては、正月も半ば前の松の内の気分が残っている時の方がよいという声もあるので、次回への参考としたい。

当日の出席は、会員46社66名、出版社代表15社19名、計85名であった。

（文化厚生委員・

洋販 栗原記）



洋書こぼれ話

丸善本の図書館長 八 木 佐 吉

本誌の編集の方から、昭和初年度の洋書の話という、おもとめなのですが、わたくしが丸善に育った立場からいって、自然とはなしが同店中心に片よって、井中の蛙ばなしとなることをおゆるし願っておきます。また、前執筆の方の記述と年代的にダブルとも思いますが、一応、大正の末年からはなしを始めさせていただきます。

大正12年(1923)の関東大震災のあとは、その前年からの一般不況が、災後ますます深刻さを加えてきていた。しかし、復興事業にともなう諸資料文献の要求が強く、書籍業界は、和書、洋書ともに、世間の不況をよそに、全体として向上線をたどっていたように記憶する。

関東大震災の数カ月以前から、丸善では「ハームスウォース萬有百科全書」(Harmsworth's Universal Encyclopedia)全12巻の予約募集を開始していた。この百科全書は、「(オ一次)世界大戦前後の世界の形勢、新しい思想の動き、科学、工学工業の進歩などを網羅し、世界文化の鳥瞰的縮図」といったような宣伝文句で拡売された、いわば通俗の百科全書であった。クロス装で¥100であり、1923年8月までに2度入荷して、売切れとなっていた。この百科が災後1923年末から翌1924年にかけて、オ3回以降の入荷の度ごとに、その手頃な内容が、読書界に大いに迎えられて、羽がはえたように売れた。

丸善の「学灯」は9カ月休刊して、1924(大正13)年6月から復刊した。このころはヨーロッパも長い間の戦争のあとの反動で楽しみの本が、いろいろ出版され出してきた。対照的に、日本も震災後の落ちつきをやや見せてきたので、ロシヤン・パレーとか Leon Bakst や Max Reinhardt の舞台装置、装飾関係の洋書が、特に目立って需要され輸入されている。果然、こういった傾向に符節をあわせるごとく、小山内薫先生たちの主催する「築地小劇場」が1924年6月に開場した。葡萄紋様の劇団マークをつけて、開幕にドラを鳴らしたりして、何とない新らしみをみなぎらせて、今までの芝居の気分と、全く別の世界を見せてくれた。チェホフ、ゴルキー、ゲオルグ・カイゼルなどの戯曲が、つぎつぎと上演されて、若い人々に歓声をあげさせていた。一方で、ヨーロッパ大陸の文芸書が一段と

あさられてきた。

しかし、一方では世界中がまことに厳しい世相でもあった。英国でオ一次マクドナルド労働党内閣が産れたのも、この年の始めごろであり、ドイツの賠償問題もくすぶっていた。日本でも、大戦後からの労働運動が漸次、實際行動となって現われつつあった。レーバースプロブレム、ソシアリズム関係の洋書、ロシア革命関係の文献、マルクス、レーニン、トロツキー、クロボトキン等の著作が英語、ドイツ文、ロシア語といろいろ入ってきている。この頃はこういったいわゆる左傾文献の取締りが、ソロソロやかましくなってきたが、まだまだ比較的に多数の輸入が可能であったこと、今から想うと不思議のようでもある。ドイツ原文のマルクス資本論が3巻で¥18程度であった。

1924年9月から10月にかけて、「ドイツ新刊書籍展」をゾルフ・ドイツ駐日大使の斡旋で開いた。その趣意書に「大戦後ドイツが経済の危機に立ちつつ毫も弛まず、鋭意する印刷出版文化を紹介するための展覧会を、ドイツの学術文芸に同感渾き日本に開催するは、大震災のため、振古の文化的大打撃を受けた日本にとっても亦意義深きを思ひ、一つには日独の文化的親善に資するの目的にて、全ドイツの出版業者319社は……此計画に参加して、出品の書籍は17部門、127項目総数8千余点ことごとく大戦以後の出版である……」とあります。もって、その規模がうかがえると思う。まことに大評判の展示会で、ドイツ書籍のため、また日本の学界、読書界にとっても意義深いものであった。この時の目録は四六判で8ボ組で370頁の大部のもの。

書籍業界は大正14年を、前年末に売り出された講談社の新大衆雑誌「キング」のバクハツ的売れ行きで迎えた。業界が「あれよあれよ」といっている間に創刊号が77万部も売れたとき。(近代日本総合年表)

洋書の方はあれよあれよはなかったが、前々からRadioの本が、ぞくぞく入荷していた。この年3月に東京放送局が芝浦で試験放送を始めたことで、ますます需要がふえて切りがなかった。和書のラヂオと無線関係書も書店にあふ

れ、部品屋も至る所に開店した。しかし、何といってもこういう新分野は洋書に頼ることを専門技術者もアマチュアも等しく誇りとして、買いあさったのである。と、いっても、アマの殆どは鉱石検波器で、今から思えば、まるでオモチャのような受信器で楽しんでいたのだ。

今日でも人気のある“麻雀”もこのころから流行しだした。面白いことに、この遊びのはやり始めのころは“Mah Jang”という洋書(英文)の解説書が、何種類も入ってきて、日本文のものより、先んじて読まれたのである。おもうに麻雀は、日清戦争ごろに一時日本で流行したと古老から聞いたことがあるが、途だえていたのを、この年頃また西洋から再伝染したものかもしれない。

さて、考古学・美術書の洋書に話をうつそう。1922年に英国調査隊がエジプトでツタンカーメン王の墓を発掘して、その素ばらしい出土物のことが、世界中を衝動させていた。この詳細の報告書 H. Carter 著 *Tomb of Tutankhamen* (全3巻)の第1冊が、この年(1925年)出版されて評判であった。この本を皮切りにエジプトや中近東の考古書が引きつづき歓迎されだしてきた。一方、ラテンアメリカのインカ文明の本も、Fuhrmann, Ernst-Reich *der Inka* とか Lehman, Walter *Kunstgeschichte des alten Peru* などが輸入され、一部の史家、好古家に珍重されている。

中央アジア関係の発掘の書物は、溯れば、Aurel Stein の *Ancient Khotan* が1907年に、Ruins of Desert Cathay が1912年に、A. Grünwedel の *Alt Kutscha* が1920年に英・独で出版され、それぞれすでに舶載輸入されていた。それらに輪をかけるように、出版された Stein の大著 *Serindia*, つづいて *Thousand Buddha* が1921年に出ていたが、震災などで、大物の輸入が中断されたかたちのところ、1924-25年ごろから、再入荷して、また一段と評判されたものである。

1924年11月に“東洋文庫”が新築成って開館したことは、学界のみならず、新古の書籍業者の最大関心事の一つであった。東洋文庫は1917(大・6)年岩崎久弥氏が北京にあった英人 G. E. Morrison 氏のアジア文庫を購入して、日本に移しそれを中心に、以後整理、拡充してきた、東亜関係文献の一大集書である(こと、ここに今更、記すまでもなく、すべてによく知られていることであろう)。この東洋文庫が、開館以後は、モリソン時代の支那中心を、更に範囲をひろげて、東亜全域におよんできたので、いわゆるオリエンタリアものの動きが全般に目立って活潑となってきたのであった。

また、一方では、南蛮紅毛もの、キリシタン文献への一般関心も強まってきて、そのため東西交渉史の新古の洋書の需要も盛んであった。James Murdoch の *History of Japan* の第3巻 *The Tokugawa Epoch, 1652-1868* が J. H. Longford に依って編集されて1926年ロンドンで出た。これもこうした時世にそった出版の一つである。なお、マードックの日本歴史は第2巻が *History of Japan during the Century of Early Foreign Intercourse, 1542-1651* としてすでに1903年に山県五十雄と共著で神戸で出版され日本と西欧との交渉史として、内外で注目した書物であった。第1巻は *From the Origins to the Arrival of the Portuguese in A. D. 1542* として1910年に出ており、第3巻の上梓とともに既巻2冊も新版を売り出した。マードック(1856-1921(?))はスコットランド産れの日本研究家で、明治22年来日、各地の中学、高等学校の英語教師を勤め、のち大学教授としてメルボルンに移った。第3巻はその没後の出版である。

矢代幸雄氏の Sandro Botticelli の大冊がロンドンの The Medici Society から630部限定で¥200で出版されたのは1925年である。この大部な労作にはビックリさせられた。質量ともに立派なものであることと、邦人の著作であることに誇りを覚えたことであった。

太平洋の波が漸時たかまってきて Bywater の *The Great Pacific War, 1931-33* という日米戦争の仮想小説が輸入されたのは1925年の年末ごろ。のちに世界中をさわがした本である Adolf Hitler の *Mein Kampf* の最初の部が出版されたのも1925年なのであるが、この本は出版当時は日本の目録類には全然紹介されていない。

話はまた別の岐路に入る。P.O.D.つまり Pocket Oxford Dictionary が Fowler 兄弟の編纂で上梓されたのは1924年(¥1.95)。これが同年末には日本に入ってきている。この小字典の広告文には“C.O.D.の単なる縮冊ではなく、新語をも充分入れた新字典”とある。日本の英学界は、これより先き、発音学の H. Palmer を1922年に、その高弟 A. S. Hornby と詩人 E. Blunden とを1924年に迎えていて、なかなか、充実したときであった。つづいて、1926年には同じく H. W. Fowler の *A Dictionary of Modern English Usage* が“語学に関する小 essays のコレクションなる感”をもって出版されている(¥4.15)。やがて初出版以来数十年の大著 O.E.D. も完成するが、このことは別稿としよう。

学園紛争について

学園紛争が頻発する中で我々業者がこれにいかに対処してゆくかが、今後の重要な課題になることは何人も否定できないであろう。昨年12月20日の懇談会で、学園紛争の対策委員会を発足させたが、具体的かつ効果的な方策についてまだ暗中摸索の感がないでもない。一口に紛争といっても各校によりその状態は千差万別であり、従ってその対策もケース・バイ・ケースにならざるを得ない。ただ我々が学園紛争について注意せねばならぬことは、紛争という言葉のもつ意味、つまり利害の相反する当事者間の争いと考えてしまうことの危険性である。現在起りつゝある諸大学の紛争状況をみても、これらは紛争というよりもむしろ騒乱、騒擾という言葉の方が適切といわざるを得ない。それは一部の暴力学生、主として反日共系が暴力により校舎を占拠し、学園の機能を麻痺させて自己に都合のよい要求をかゝげ、大衆団交と称する言論暴力により一方的に相手を屈伏させようとしている現状だからである。そしてその間、封鎖した学園の中では、建物の破壊、器物の損傷、監

禁、脅迫、暴行、窃盗等のあらゆる刑事犯罪が行われている事実を直視しなければならない。また彼等が常に唱えるのは改革或いは民主化という言葉である。確かに一部の大学には管理運営の非近代的なところもあり、改革或いは民主化の必要性は十分あるとは思ふが、彼等の唱えるそれらは実は口実であり、その終局目的は議会民主主義を否定し現在の社会秩序を破壊しようとするものであることもまた事実である。従って大学当局が彼等と団交し説得するなどということはそれこそナンセンスといわざるを得ない。

このような状態の中で我々業者が正常の業務を遂行することは全く不可能のようであるが、現実には、東大、日大等特殊例数校を除いて、紛争校といえども最低限の運営は維持されており、我々の期待に答え得る余地が残っている。各大学当局の学生運動についての情報交換は、或る程度滲透しており、その対策についても具体的方策が練られつゝある。従って研究に必要な書籍、雑誌の納品、請求、支払についても程度の差こそあれ、可能であるといわれている。1970年の安保改定時期に向い益々エスカレートするであろうこれらの紛争に対し、我々は衆知を集めてその抜本的対策を早急に講ずる必要を感じざるを得ない。

— G 生 —

会 員 紹 介

—— 多 面 的 な 業 務 を ——

日本出版貿易株式会社

本年1月に創立27年を迎えた。望月社長は現会長の長男で、社業を継いで7年目になる。和書の海外同胞への供給を中心に始めた同社も、今や本に関するあらゆるビジネス——輸出入、和書・英文書・リプリント出版、日本学術雑誌のサブ、版權売買等——に従事している他、雑貨輸出入（小は耳掻きから自動車・茶室・庭園まで）にまで手を広げている。英文書輸出は自社出版物が主であるが、政府刊行物、その他有力出版社の総代理店として米国日貿（桑港・紐育）をとおして捌いている。米国には米国人を交えた20数人の社員がおり、桑港には近鉄と共同出資のJCTレーディングが雑貨販売をしている。本社ビル内に米国国会図書館の東京事務所があるが、そこをとおして日本中の出版物が選別され、華府へ供給している。これら輸出面のかげで洋書輸入部門は、輸出より重い資金負担に耐えながら、科学技術書を中心に斯界の好評を博している。

海外ニュース

「英国書籍の平均単価」

英国では、1968年7月より12月までの期間に、政府刊行物を除き、1463の出版社より15,470点の書籍が出版され、その総額は33,523ポンド12シル2ペンスに上った。従って書籍1冊当りの平均単価は43シル4ペンスであった。

(前期(1968年1～6月)においては、1400社より15,087点、総額30,738ポンド18シル9ペンスであり、平均単価40シル9ペンスであった。)

新刊書についてみれば、1968年7～12月期では11,526点総額24,806ポンド14シル4ペンス、平均単価43シル0½ペンスで、前期の平均単価42シル2ペンスに比し10½ペンスの増にとどまった。

再・重版書は3,944点、総額8,716ポンド17シル10ペンス、平均単価44シル2½ペンスで、前期の平均単価36シル9ペンスに比し、7シル5½ペンスの増を示した。

(The Bookseller, 1969年1月18日号より)

「ヴァン・ノストランド・

レインホルド社が新発足」

American Book Co., D. Van Nostrand Co., Inc.,

Reinhold Book Corporation の3社が合併し、このほど新たに Van Nostrand-Reinhold Co. という社名のもとに発足した旨同社より通知があった。

すでに2月1日より発効の同社の discount schedule などが発表されているが、営業面では、今のところ、大きな変更はない模様である。

「ドイツ書籍取次店の合併」

1969年1月1日付で、ドイツ・ギューターローの Reinhard Mohn OHG Kommissionshaus Buch und Ton 社はシュライスハイムの Buchkommissionshaus Kellermann KG を買収した。ただし Kellermann 社は、現在の名称のまま営業を行ない業務上も大きな変更はない模様である。(Börsenblatt 西独版 1月28日号より)

「社名変更」

ドイツの農業関係の出版社として知られている Bayerische Landwirtschaftsverlag は、本年度より社名を BLV Verlagsgesellschaft GmbH と変更した。

(Börsenblatt 西独版、1月28日号より)

——紀伊国屋書店提供——

ニュース

- 米 Sensus International 社の President, Mr. C. Gerald Diamond 1月来日。
- 米 Collier-Macmillan International 社の President, Mr. Leo P. Mabel 2月上旬来日。
- スイス Office du Livre の Mr. Jean Hirschen 1月下旬来日。
- 英 Methuen 社の Mr. Raymond 2月上旬来日。
- 英国 A B P グループの Managing Director, Mr. Piers Raymond 賢婦人として誉高い夫人を同伴の上、2月上旬来日。
- 前橋康弘氏(中央洋書株式会社代表取締役)昨年12月21日胆嚢炎にて都立広尾病院に入院加療中のところ、去る1月20日治癒退院。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

株式会社 医学書院洋書部 ☎ (814) 5931-5

Frenksson: Kidney Transplantation, 1968 (Almqvist & Wiksell, Stockholm, Sweden) ¥4,800
Taylor: Beck's Obstetrical Practice, 8th ed., 1966 (Williams & Wilkins, Baltimore, U.S.A.) ¥3,900

日本洋書販売配給株式会社 (洋販) ☎ (202) 4461

L'OFFICIEL de la Couture et de la Mode Paris	(Editions VVE. Max Brunhes)	1969年発行の号より
ACTUALITE COUTURE	(" ")	"
SHOOTER'S BIBLE	(Follet)	1969年版より
GUN DIGEST	(")	"
GUNS ILLUSTRATED	(")	"

株式会社 ユー・エス・エシアテック カンパニー ☎ (591) 5181代

* AUERBACH PUBLICATIONS

	新 規	継 続
1. AUERBACH Standard EDP Reports	¥540,000	¥445,500
2. AUERBACH Standard EDP Reports	405,000	337,500
3. AUERBACH Scientific and Control Computer Reports	175,500	144,000
4. AUERBACH Data Handling Reports	146,000	112,500
5. AUERBACH Data Communication Reports	146,000	123,700
6. AUERBACH Computer Notebook	85,500	78,700
7. AUERBACH Software Notebook	150,700	141,700
8. AUERBACH Computer Notebook International	110,000	99,000
9. AUERBACH Graphic Processing Reports	173,000	141,700
10. AUERBACH Computer Characteristics Digest		
1 vol. with 4 times supplement service	21,800	17,600

* ICE CORP. (Integrated Circuit Engineering) PUBLICATION

Integrated Circuit Engineering

Basic Technology Manual

1 Main vol. with irregular supplement service ¥112,500

* ISI (Institute for Scientific Information) PUBLICATIONS

CURRENT CONTENTS: Education (創刊 2月)

CURRENT CONTENTS: Behavioral, Social & Management Sciences (創刊 3月)

Educational rate List Price ¥30,300

All others " 45,000

正 誤 表

先般お送り致しました List of Sole Agents and Authorized Distributors の内社名が脱落して居りましたので、お手数でもご訂正かたお願い致します。亦 Representatives で住所並に電話変更通知がございましたので、併せてご訂正かたお願い致します。

11頁7行目に挿入

Kitao Shoten Shinsha, Inc. 06—(203)—3491—4

03—(260)—9291—2

Periodicals (Selected Titles, Subscription)

Bulletin of the USSR Academy of Sciences—Physical Series

English Translation (Monthly)

annual sub. ¥110,250

Scott, Foresman and Company

K-10, 3-Ban, 4-chome, Sengen-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183

東京都府中市浅間町4丁目3番 K-10 〒183 電話 武蔵府中 (0423) 62-8061

昭和44年2月 通巻第22号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329